
2024年2月期 第3四半期決算

< 参考資料 >

2023年 12月26日

くらしの「あたらしい幸せ」を発明する。



J. FRONT RETAILING

< 3Q決算サマリー >

- ◆ 社会・経済活動は一段と正常化、免税売上高の伸長も加わり、
増収増益
- ◆ 年間業績予想に対する進捗は、概ね計画通りに推移
- ◆ 年間業績予想は、10月公表から変更なし

2023年3月1日付の組織再編に伴い、株式会社パルコからJ.フロント都市開発株式会社へ不動産が移管されております。これに伴い、前第1四半期連結会計期間の期首より、移管されたものとみなし遡及修正しております。

- ▶ 消費回復や免税売上高の伸長が持続したことなどにより増収増益
- ▶ 3Q (9~11月) は事業利益増に加え、SLH社の株式譲渡などにより、営業利益、四半期利益ともに増益

(単位：百万円、%)

2023年度 (2024年2月期)	3Q (9~11月)			3Q累計 (3~11月)		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	278,961	33,624	13.7	819,094	109,626	15.5
売上収益	94,928	7,117	8.1	286,562	29,621	11.5
売上総利益	47,006	4,622	10.9	140,389	15,144	12.1
販売管理費	36,518	1,164	3.3	109,704	5,118	4.9
事業利益	10,487	3,458	49.2	30,684	10,025	48.5
その他の営業収益	1,038	600	137.0	2,856	98	3.5
その他の営業費用	533	△72	△11.9	2,863	△454	△13.7
営業利益	10,993	4,131	60.2	30,677	10,577	52.6
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	8,704	4,098	88.9	21,604	6,842	46.3

(単位：百万円、%)

2023年度 (2024年2月期) 3Q(9~11月)	売上収益			事業利益			営業利益		
	実績	対前年		実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率		増減高	増減率
百貨店事業	56,041	5,713	11.4	6,535	3,456	112.2	6,448	3,752	139.2
SC事業	14,573	1,314	9.9	2,876	1,079	60.1	2,881	805	38.8
デベロッパー事業	17,069	2,695	18.8	856	129	17.6	861	178	26.1
決済・金融事業	3,100	△295	△8.7	610	△489	△44.5	532	△554	△50.9
その他	12,648	△1,476	△10.5	209	△178	△45.9	145	△278	△65.7
調整額	△8,506	△836	—	△601	△540	—	123	226	—
合計	94,928	7,117	8.1	10,487	3,458	49.2	10,993	4,131	60.2

2023年度 (2024年2月期) 3Q累計(3~11月)	売上収益			事業利益			営業利益		
	実績	対前年		実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率		増減高	増減率
百貨店事業	168,428	16,490	10.9	18,213	9,403	106.7	16,555	10,046	154.3
SC事業	42,576	2,948	7.4	7,737	1,795	30.2	8,654	1,567	22.1
デベロッパー事業	50,836	10,354	25.6	2,844	704	32.9	3,089	769	33.2
決済・金融事業	9,834	125	1.3	2,175	△756	△25.8	2,035	△905	△30.8
その他	39,947	△855	△2.1	890	△147	△14.2	1,163	△30	△2.5
調整額	△25,059	559	—	△1,176	△974	—	△820	△869	—
合計	286,562	29,621	11.5	30,684	10,025	48.5	30,677	10,577	52.6

- ▶ 堅調な富裕層マーケットに対応した戦略・施策が奏効、上期に続き、
外商・免税売上が伸長したことなどから増収
- ▶ 売上比例経費や人件費など経費増も、事業利益・営業利益とも大幅増益

(単位：百万円、%)

2023年度 (2024年2月期)	3Q (9~11月)			3Q累計 (3~11月)		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	180,988	21,995	13.8	530,275	66,042	14.2
売上収益	56,041	5,713	11.4	168,428	16,490	10.9
売上総利益	37,219	4,344	13.2	110,032	13,016	13.4
販売管理費	30,683	888	3.0	91,819	3,614	4.1
事業利益	6,535	3,456	112.2	18,213	9,403	106.7
営業利益	6,448	3,752	139.2	16,555	10,046	154.3

- ▶ 3Q（9～11月）の既存店売上は18年度比+6.0%、上期に続き好調に推移
- ▶ ターミナル店を除く基幹店売上は、2Q以降、18年度比プラスに転換

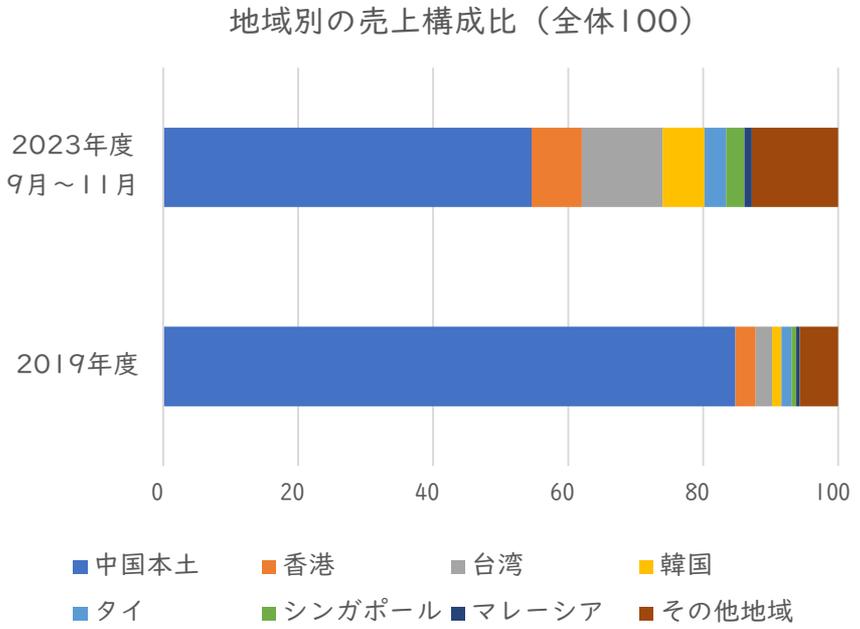
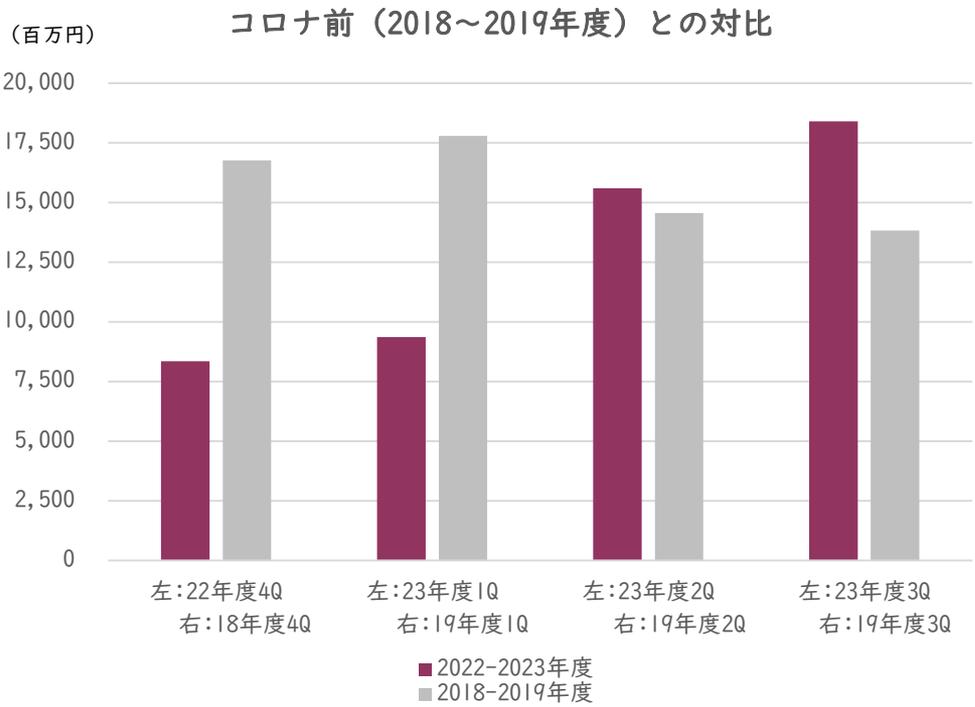
(増減率、%)

2023年度 3Q（9～11月）	対前年比較			対2018年度比較		
	1Q	2Q	3Q	1Q	2Q	3Q
心齋橋店	34.4	35.3	39.7	△3.4	14.4	24.2
梅田店	20.5	21.9	10.3	△17.7	△15.3	△16.5
東京店	35.7	28.9	18.7	△2.6	△5.5	△1.9
京都店	15.6	15.1	16.2	△4.2	1.9	8.2
神戸店	8.9	9.6	8.5	10.1	19.5	17.9
札幌店	16.4	16.9	18.7	4.3	6.8	18.6
名古屋店	10.7	8.7	7.3	4.7	4.7	8.8
直営店（既存店）合計※	16.8	16.4	14.7	△3.1	1.1	6.0

※2018年度比較では山科店、下関店、豊田店実績を除く

▶ 2Q（6～8月）から急回復し、3Q（9～11月）では19年度比で約+33%、四半期単位では過去最高売上

▶ 地域別の売上構成は、19年度比で香港、台湾、韓国など各国の売上が伸長。中国本土・東南アジアを中心に一層の訪日客増加に期待



※18年度4Qは、下関店実績を除く

- ▶ 対前年の増加要因は、主に売上増に伴う諸経費の増加と人件費
- ▶ 19年度比では、19年度の特殊要因（退職給付費用△41億円）を除く、実質の増減高は約△18億円

(単位:百万円)

項目	2023年度 3Q(9~11月)	対前年 増減高	対19年 増減高	対前年 主な増減要因
人件費	7,517	356	5,383	【人件費】
広告宣伝費	2,565	64	△395	・生活支援手当 +1.4億円 ・賞与 +1.0億円
包装配達費	288	△87	△199	【広告宣伝費】 ・広告・販売促進 +0.6億円
減価償却費	5,190	△236	△553	【その他】
作業費	2,953	130	29	・売上比例経費 +3.3億円 ・光熱水費 △1.7億円 ・電算費 +1.4億円 ・業務委託費 +1.3億円
その他	9,256	653	△1,979	
販管費合計	27,772	880	2,287	※実質の増減高 △18億円

- ▶ 基幹店での戦略改装や全店統一企画等のプロモーションの効果、訪日外国人観光客の来店増などにより増収
- ▶ 増収効果に加え、プロモーション催事の好調や光熱水費の減少など、売上原価の抑制などにより事業利益・営業利益ともに増益

(単位：百万円、%)

2023年度 (2024年2月期)	3Q (9~11月)			3Q累計 (3~11月)		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	74,246	11,177	17.7	215,162	31,939	17.4
売上収益	14,573	1,314	9.9	42,576	2,948	7.4
売上総利益	5,194	1,340	34.7	14,498	2,569	21.5
販売管理費	2,317	260	12.6	6,760	774	12.9
事業利益	2,876	1,079	60.1	7,737	1,795	30.2
営業利益	2,881	805	38.8	8,654	1,567	22.1

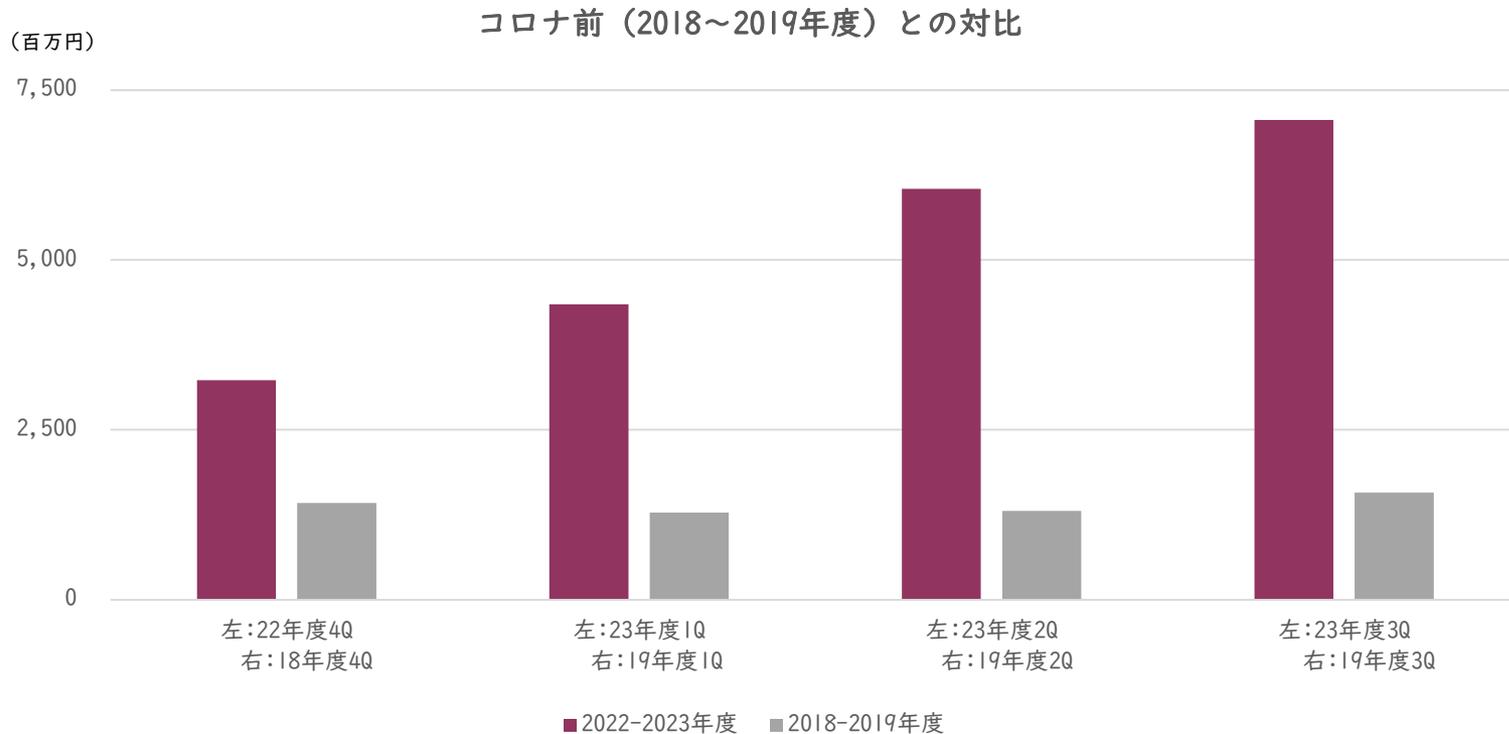
- ▶ テナント取扱高は、全店計・既存店合計ともに改善基調。渋谷PARCO、心齋橋PARCOは好調持続
- ▶ 3Q（9～11月）の既存店合計は、18年度比で△4.0%まで回復

（増減率、%）

2023年度 （2024年2月期）	対前年比較			対2018年度比較		
	1Q	2Q	3Q	1Q	2Q	3Q
札幌PARCO	34.8	51.1	27.9	△11.3	0.3	3.8
浦和PARCO	9.2	12.4	9.1	4.6	10.8	6.6
池袋PARCO	18.0	31.3	13.3	△15.1	△6.7	△12.5
渋谷PARCO	62.6	65.0	66.2	—	—	—
調布PARCO	9.1	9.8	9.6	1.7	6.0	4.0
名古屋PARCO	8.5	13.9	23.5	△18.5	△11.7	△2.3
心齋橋PARCO	52.7	61.0	46.9	—	—	—
福岡PARCO	26.1	33.0	23.8	4.0	7.3	11.2
全店合計	15.6	20.7	17.8	9.1	17.1	18.9
既存店合計	20.4	25.5	22.2	△9.1	△3.4	△4.0

※既存店：前年比較では津田沼PARCO、2018年度比較では渋谷PARCO、心齋橋PARCO、錦糸町PARCO、宇都宮PARCO、熊本PARCO、津田沼PARCOの実績を除く

- ▶ 渋谷PARCO・心齋橋PARCOを中心にインバウンド取扱高(3~11月)は174億円、取扱高シェア約8%まで伸長。3Q(9~11月)は19年度比で約4.5倍
- ▶ 東アジアをはじめ各国への情報発信、販促施策などを強化



(注) インバウンド取扱高は、海外発行クレジットカードと中国系モバイル決済手段の合計により算出しております。

- ▶ 建築内装事業において原価上昇などの影響はあるものの、グループ内外工事の受注増などにより増収増益
- ▶ 4Q (12~2月) において計画通り、所有不動産の売却などを予定

(単位：百万円、%)

2023年度 (2024年2月期)	3Q (9~11月)			3Q累計 (3~11月)		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	17,069	2,999	21.3	50,836	11,256	28.4
売上収益	17,069	2,695	18.8	50,836	10,354	25.6
売上総利益	2,523	136	5.7	7,955	1,039	15.0
販売管理費	1,667	8	0.5	5,110	334	7.0
事業利益	856	129	17.6	2,844	704	32.9
営業利益	861	178	26.1	3,089	769	33.2

- ▶ 百貨店や外部加盟店で取扱高が増加した一方、年会費減少やポイント交換の増加に伴う費用増などにより、3Q (9~11月) は減収
- ▶ 事業基盤の拡大に向けた投資費用や人件費等の増加などにより事業利益は減益、営業利益はカード不正利用の増加なども影響

(単位：百万円、%)

2023年度 (2024年2月期)	3Q (9~11月)			3Q累計 (3~11月)		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	3,100	△295	△8.7	9,834	125	1.3
売上収益	3,100	△295	△8.7	9,834	125	1.3
売上総利益	3,100	△295	△8.7	9,834	125	1.3
販売管理費	2,490	195	8.5	7,658	880	13.0
事業利益	610	△489	△44.5	2,175	△756	△25.8
営業利益	532	△554	△50.9	2,035	△905	△30.8

- ▶ 資産合計は1兆1,409億円、対前期末199億円の増加
- ▶ 有利子負債（リース負債除く）は2,385億円、対前期末△105億円の削減
- ▶ 親会社の所有者に帰属する持分は3,731億円、対前期末137億円の増加

資産合計

1,120,953 $\xrightarrow{+19,957}$ 1,140,910



23年2月末

23年11月末

有利子負債

413,949 $\xrightarrow{\Delta 29,642}$ 384,307



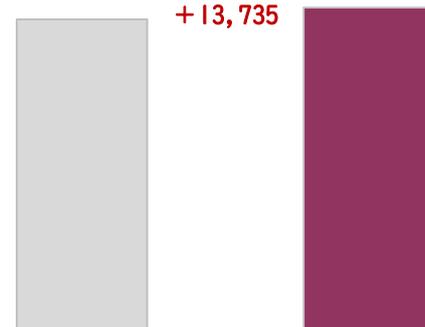
23年2月末

23年11月末

親会社の所有者に帰属する持分

32.1% $\xrightarrow{+0.6pt}$ 32.7%

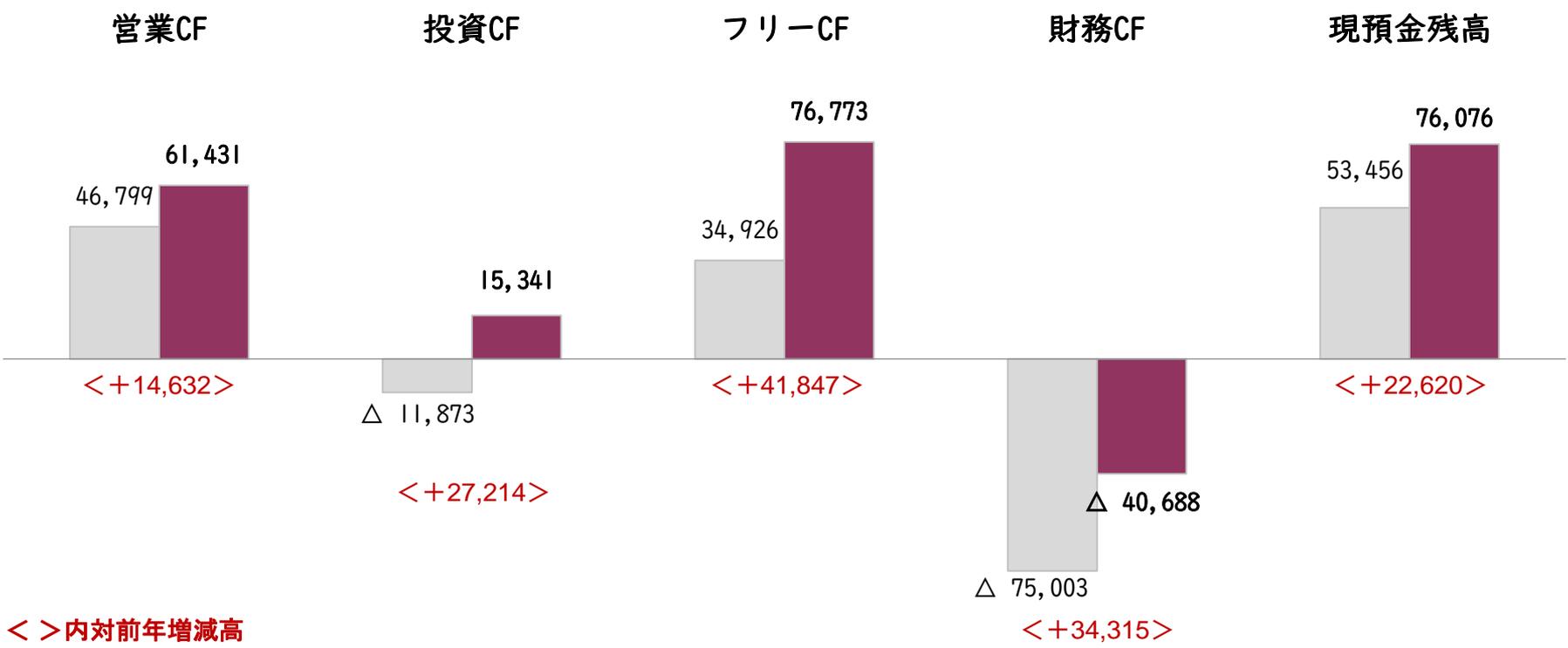
359,385 $\xrightarrow{+13,735}$ 373,120



23年2月末

23年11月末

- ▶ 営業CFは利益増などにより、対前年+146億円の収入増
- ▶ 投資CFは戦略投資等の一方、SLH社株式の売却収入などで153億円の収入
- ▶ フリーCFは767億円を確保、対前年+418億円増加



< > 内対前年増減高

(単位:百万円)

■ 22年度3Q実績

■ 23年度3Q実績

Website

<https://www.j-front-retailing.com>

くらしの
「あたらしい幸せ」を
発明する。



J. FRONT RETAILING

本資料における業績予測や将来の予測に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されております。従いまして、様々な要因の変化により実際の業績は見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。